

7月28日(日) 野登山 851m

中村、柴橋、伴野、市橋、水谷、織田
▲連日の猛暑。8：50、坂本棚田駐車場を後に
点在する未整備の棚田の草刈りの男性に声を掛け、集落を抜けて登山口に入る。登山道(野登寺の表参道)は、50 cm程の地蔵が点在する参道は、傾斜の強弱こそあれ、一貫して登りだ。10：30頃夢創庵跡地広場に到着。11：00野登寺前広場、駐車場に到着。山門(石門)をくぐると杉の巨木と石仏が並ぶ参詣道や石段があり、それらを登りきると910年建立の本堂に到着する。山頂到着は11：35。樹木に囲まれ眺望ゼロ。



▲11：50頃国見広場に到着、入道ヶ岳や鎌ヶ岳が一望できた。昼食休憩後下山。樹林帯であるが足場の悪い痩せ尾根が続く。途中左手の谷筋にミツマタの群落が続く。14：40坂本棚田駐車場着。暑い日で、ヒルに気を配りながらの長距離山行ではあったが、山中で時折り吹く爽やかな風に癒されながらの一日であった。

——記録：中村、写真：水谷

※ 坂本棚田 三重県亀山市安坂山町

「坂本棚田」平成11年農水省より「日本の棚田百選」に認定され、棚田枚数は440枚、棚田保存会員40戸。棚田は洪水や土砂崩れを防ぎ、豊かな生態系を作るなどの機能を有し、中山間地域や下流域の環境と生活を守っている。

今回、駐車場周辺の棚田は、その多くが雑草がはびこり耕作放棄地のようであった。共同で畔や道路の草刈りをしている地元の皆さんに声を掛けたら、高齢者ばかりで管理ができなくなったためとのこと。これが実態で、何とも淋しい想いを抱いて眺めるばかりであった。 —— 織田

尾瀬のポッカ(歩荷)

▲標高1,420mの尾瀬小屋。7人の歩荷が週に6回、10軒の山小屋に荷物を届けている。山小屋への距離は片道約10キロ、重さは時に80キロにもなる野菜が中心とのこと。



沖総隊長 9月にインドヒマラヤへ!

▲日本山岳会東海支部登山隊(沖総隊長)は9月22日-10月14日にインドのラダック・パンゴン山脈・Merak(6481m)へ出かけます。4ヶ月かかって登山許可を取得、現在登山準備中。4700mのBC訪問と続いて、印パ国境のK2につながるシアチェン氷河探訪です。高所順応のため、8月28-31日まで乗鞍岳豊平・銀嶺荘(2705m・日本一番高いバスターミナルのそば)に宿泊し、できれば山頂(3026m)を往復する予定です。 —— 沖

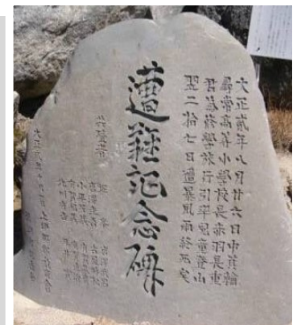
木曾駒への学校登山

T2年の教訓



▲上伊那地域の中学2年生による中央アルプス駒ヶ岳(2,956m)への学校登山が22日、辰野中学校を皮切りに始まった。

※大正2年8月、中箕輪尋常高等小学校の駒ヶ岳遭難事故。2日間の学校登山、頂上で暴風雨に合い、当てにしていた小屋が無く、下山中の校長・生徒ら11名が亡くなった事故。新田次郎の「聖職の碑」が映画化された。



9月から、例会場を東区の矢田小学校へ移動します。スポ館から「ウイルあいち」へ移動して4年余、駐車無料でOK□pm6~9時